質の高いケア環境を目指す介護情報誌

D wing

ディー・ウィング

VOL. 39

この人に聞く!

第22回 お仕事のヒント

介護ロボットなどのツールをどう使う?

第37回 Care Point

膝を伸ばして歩くことで下半身の筋肉を鍛えよう

この人に聞く！

お仕事のヒント

第22回

介護ロボットなどのツールをどう使う？

介護ロボットや見守りセンサー、情報共有システムなど、先進技術を活用したツールがいま数多く開発されています。
その一方で、「せっかく導入したが使いこなしていない」という介護事業所も少なくないようです。
介護事業者のコンサルティングや介護ロボットメーカーへの開発支援を行う
社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 所長の松村昌哉さんに、
先進技術のツールを活用するポイントをうかがいました。

介護事業所のツールの普及はこれから

▼介護ロボットなどのITツールを使う目的とは

―最近では、介護ロボットが注目され、先進技術を用いた様々な機器やシステムなどが登場していますね

私たち善光会では、2009年からこれまで約130種類の介護ロボットなどのツールを試してきました。確かに10年ほど前までは、実用性に劣り、導入しても十分に活用するまで至らない状況も見られました。

しかし、技術の進歩や介護現場が開発に協力することによって、現在は便利なツールが多数登場しています。

―介護現場にITツールを導入する目的をどう考えたらよいでしょうか

ツールを導入する目的は、はっきりしています。先進技術を活用して「介護の質」と「効率」を上げるためです。つまり、最小限の人数と投資で、より質と安全性の高い介護を提供するためにツールを使うのです。

私たち介護に携わる者は、そうする必要があることを十分に認識しておかなければなりません。なぜなら、今後は全ての介護施設で人材不足がさらに進むと想定され、今のままでは事業所として存続できなくなるからです。

▼ITツールの導入に際して業務に対する発想も変える

―そもそも介護ロボットとは、どういうものを言うのですか

一般的には、厚生労働省と経済産業省が「ロボット技術の介護利用における重点分野」としている6分野にあてはまるものを介護ロボットと呼んでいます。私どもの法人では、介護ロボットなどの機器と記録システムなどのソフトを区別せずに全て「ツール」と呼び、道具として積極的に使っています。

―介護現場へのツール普及は、いまどのような状況ですか

介護現場では「先進技術のツールは業務でうまく使えない」とか「操作が難しそう」といったイメージを持つ人も多く、普及はまだこれからというのが実際のところだと思います。

―ツールを導入して、介護の質や安全性の向上や効率化を実現するためのポイントを教えてください

「ツールは使いづらい」「役に立たないから要らない」などの意見が出る場合、今までのオペレーション（業務の流れ）を変えないままで導入しようとしていることに問題がある場合があります。新しい機能を持つツールを導入したら、最適なオペレーションは変わるべきです。その認識をスタッフ全員が共有することが大切です。

今までの職場のルールや方法、習慣にこだわらず、新しいツールを使いこなすためのオペレーションを柔軟に構築してください。そうしなければ、ツールを導入した効果は得られず、介護の質も改善しません。これが「新しいツールを導入して良かった」とするための重要なポイントだと言えます。

表　ロボット技術の介護利用における重点分野（厚生労働省・経済産業省 2017年10月改訂）

介護ロボットの6分野	
1 移乗介助	・装着型と非装着型がある ・装着型は、ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う ・非装着型は、介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う
2 移動支援	・屋外型、屋内型、装着型がある ・屋内型は、高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援する
3 排泄支援	・排泄物処理、トイレ誘導、動作支援機器がある ・排泄物処理機器は、排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ
4 見守り・コミュニケーション	・施設型、在宅型、生活支援に分かれる ・施設型は、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム ・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器
5 入浴支援	・ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器
6 介護業務支援	・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器

自施設に合うツールをどう選択するか

▼ツールをどう選ぶのか？

―様々なツールがありますが、どのようなステップでツール導入を考えていったらよいですか

まずは、業務上の課題を明確にしてください。食堂の掃除を効率化したい、入浴介助を手際良くしたい、夜間の見守りの質を改善したい、申し送りの時間を短くしたいなど、日頃から感じていた課題を明確にすると、どんなツールが必要なのか見えてきます。

どうしても候補を絞れない場合は、まず利用者サービスに全く影響がない介護記録システムや職員コミュニケーション用のインカムなど、「使いやすいもの」から導入するのもよいでしょう。確実に時短に寄与してケアの質を上げられるものとして、大風量で早く髪が乾くドライヤーや、湯船につかるだけで垢や汚れをきれいに落としてくれるマイクロバブルバス、食べこぼしや低いベッドの下も掃除できるお掃除ロボットなどもお勧めです。

善光会での骨伝導インカムの利用方法

- インカムをブルートゥースでスマホとつなぎ、同フロアの職員5～6人がLINE WORKSアプリで常にグループ通話状態を保持。
- 必要時に自分のマイクのミュートを解除し、いつでも誰にでも話しかける。
- 利用者様の変化はセンサーから確認し、必要があれば他のスタッフへ応援依頼。
- 申し送りはipadで完結でき効率的。ユニットで1人体制の際もインカムのおかげで孤立感なく勤務できる。

▼ツールの導入の鍵は「スピード」

―導入にあたっては、担当者を決める、委員会を作るなど、色々な方法があると思いますが、どのような体制で進めればよいですか

それぞれの事業所の風土に合わせた方法をとれば良く、トップのリーダーシップが強く、業務課題として行う事業所もあります。ツール導入を望むスタッフなどが責任者となって、委員会などのグループで行うなら、事業所内で影響力を持つ人を巻き込むのがポイントです。看護師やリハビリ、事務手続きなどに備えて事務職スタッフにも声をかけ、多職種を巻き込んで「まずはやってみよう」という方向に進んでいくことが大切です。

―準備や検討に十分に時間をかけたほうがよいのでしょうか

時間をかける必要はありません。他の事業所を見学したり、介護ロボットの体験展示施設に行ったりして「このツールにしよう」と決めたら、試用機を借りる、購入するなどして、現場で実際に使い始めましょう。

うまくいかないことがあっても小さな失敗は想定内としましょう。

「こうすると上手く使える、業務の流れはこう変えよう」と、臨機応変に事業所に合わせた使い方を構築していくことが大切です。

松村 昌哉さん　社会福祉法人 善光会 サンタフェ総合研究所 所長

Message

いま、使えるツールは多数あり、選択肢は広がっています

■介護ロボットなどのツールは、あくまでも介護の質と業務効率を上げるための道具です。くれぐれもツールの導入自体が目的にならないようにしてください。

■導入計画などの書類作成や効果検証に何カ月もかける必要はないと思います。それよりも、事業所全体で「何のためにツールを導入するのか」という認識をしっかりと共有することが何よりも重要です。

■ツール導入にあたって、使い方の研修や現場に合わせたマニュアル作りに時間をかけることも重要ではないと思います。現場のスタッフは、ツールを見ればどう使うのか、おおよそ分かるものですし、分からないときに参照できる基本マニュアルだけは用意しておいて、どんどん現場で使ってみることです。必要に応じて、後でマニュアルを作ったり、研修を受ければよいでしょう。

■介護機器、ITツールの導入に利用できる補助金については、自治体によって条件や金額が異なります。書類を整えることは決して難しくはないので、使える制度はぜひ利用しましょう。

■ツールの導入には課題の抽出、業務の構造化など、介護とは別の思考が必要なため、慣れない仕事になるかもしれません。介護ロボットに対する正しい知識を身に着け、現場に合わせて最適な介護サービスを構築できる介護士を育成するため、サンタフェ総合研究所では『スマート介護士』という民間資格制度を設けています。
https://sfri.jp/smartcaregiver/

Care Point 第37回

膝を伸ばして歩くことで下半身の筋肉を鍛えよう

［監修］
JCHO東京新宿メディカルセンター
リハビリテーション室
リハビリテーション士長
田中 尚喜

「筋肉は他の身体器官や身体機能に比べて老化の影響がきわめて少なく、たとえ90歳でも100歳でも、筋肉は一生、現役です」こう話すのは、理学療法士の田中尚喜さん。リハビリテーションによって筋力が増し、歩行能力が向上する人を数多く目にしてきました。特に、歩き方を見直すことは、歩行に必要な筋肉の筋力アップになり、高齢者であっても毎日の歩行で筋肉の衰えを改善できると言います。

効果的に筋肉を使って歩く

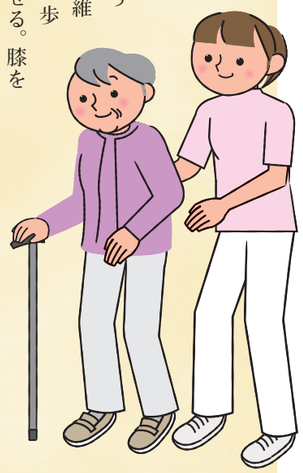
日常生活の中でほとんど意識せずに行っている、立つ・歩くという動作。大股で速く歩く人も多く、ほとんどの人が脚を前に出すときに膝が曲がっているので、体の重心（骨盤の位置）が上下して安定しません。このような歩き方は、歩行に必要な筋肉がうまく使えていないので、疲れやすい歩き方だと言えます。体の構造に基づく、正しい歩き方をまず知っておきましょう。

- **膝を曲げないで脚をまっすぐ伸ばして前に出し、かかとから着地する。**
- **かかとから足指のほうに重心を前に移動させながら、足で地面を押して体を前に出す。**

実際に歩いてみるとわかりますが、膝を曲げないで歩くと歩幅は小さ目になります。このような膝伸ばし歩行をすると、大臀筋（だいでんきん）と大内転筋（だいないてんきん）が働きます。

【大臀筋】 坐骨（骨盤）からお尻、太ももにかけてある、下半身で最大の筋肉。足を踏み込むときや後ろに蹴り出すときに下半身を安定させる大切な役目を担っていて、動くために必須の筋肉。大臀筋の筋力が衰えると、お尻が垂れ下がり、姿勢が悪くなり、立つことや歩く能力が低下する。

【大内転筋】 坐骨から膝の内側に続く、内腿の筋肉。膝をまっすぐ伸ばした状態を維持するときに働き、歩行時の体を安定させる。膝を曲げて歩くと大内転筋が働きにくく、筋力アップにならない。膝を伸ばして歩くと大臀筋と大内転筋を使うため、歩くことが下半身の筋肉トレーニングにもなるのです。これらは、長時間活動できる「遅筋」と言われる筋肉で、筋力アップすることにより長い時間歩けるようになります。



高齢者も膝を伸ばして歩こう

加齢とともに筋肉量が減少し、膝痛や腰痛などのため腰が曲がり、杖や歩行器を使用する人が増えてきます。女性に多い骨粗しょう症による脊椎の圧迫骨折のために、背中が曲がる人もいます。高齢者で筋力やバランス能力など身体能力が低下する変化は加齢によるものなので、膝伸ばし歩行のためには必要に応じて杖などを使って欲しいと思います。

してはいけないことは、曲がった背中や腰をまっすぐにしようとして、膝を曲げて体を起こすことです。膝を曲げると、大内転筋が使われず、膝関節の軟骨に負担がかかって膝関節を痛める心配もあります。

杖を使うことに抵抗感がある人もいますが、背中や腰が曲がっている、ふらつきがある場合は杖をつくことは当然なことです。杖を使って膝を伸ばして歩く。それが大切です。正しい歩行を続けることで脚の筋肉が鍛えられ、筋力アップすると腰痛や膝痛の改善、生活習慣病の改善も期待されます。

筋肉トレーニングも取り入れよう

特にトレーニングしたい筋肉は、大臀筋、大内転筋、そしてヒラメ筋の3つです。

【ヒラメ筋】 ふくらはぎの奥にある遅筋の筋肉で、地面を押し出すときに使う。ヒラメ筋が衰えると速筋の筋肉を使って歩くことになり、少し歩いても疲れてしまう。

また、前傾姿勢や膝が曲がった状態で、歩行能力が維持できない高齢者では、まず**ハムストリングス**（太ももの裏側にある3つの筋肉からなる）を鍛えてください。すでに歩行が難しい人でも、立ち上がることができるなら、転倒防止に気をつけながらつま先立ちを繰り返すだけでも筋力アップにつながります。

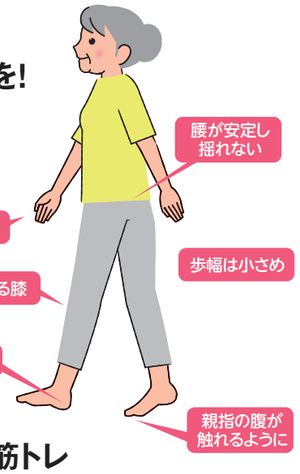
高齢者にもできる筋力アップ

歩行能力が低下してきた高齢者でもできるトレーニングをご紹介します。
若い世代の職員も、百歳になっても一人で歩くための歩き方をぜひ実践してください。
歩くことで効果的に筋肉を使い、筋力アップを目指せます。

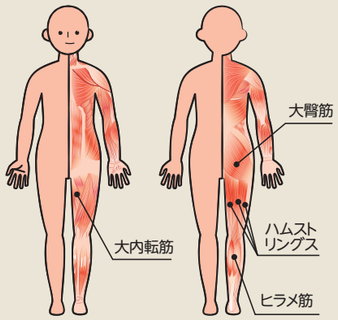
●膝を伸ばして歩いて下半身の筋力アップを!

正しく歩くことで
効果的に筋肉を使い、
筋力アップを目指せます

膝を伸ばす正しい歩き方



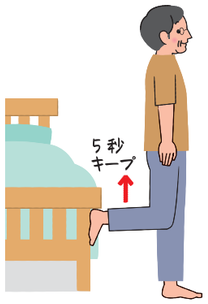
筋トレは目的の筋肉を意識して行うことが大切です



●歩くための下半身の筋トレ

歩行能力が低下して膝を曲げて歩いている人

ハムストリングスのトレーニング



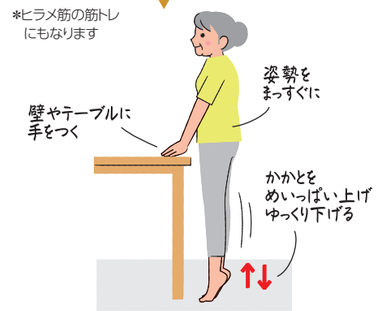
ハムストリングスの筋トレ

1. 床から 50cmくらいの高さに、足首の後ろ側を押し付ける
2. 足を上に押し付けるように5秒力を入れる

目安：左右各5回

つま先立ちの筋トレ

*ヒラメ筋の筋トレにもなります



膝を伸ばして歩くことを目指す人

大臀筋と大内転筋のトレーニング

大臀筋の筋トレ

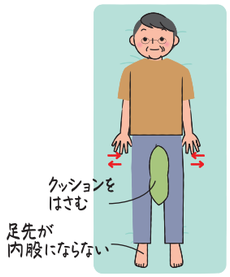
1. 仰向けに寝て、両膝を曲げ、かかとをお尻にできるだけ近づける
2. 膝の間にタオルやクッション(厚み約10cm) をはさみ、片方の足を上げ、お尻をゆっくり上げて下げる

目安：左右各10回

大内転筋の筋トレ

1. 仰向けに寝て、足の間にタオルやクッション(厚み約10cm)をはさむ
2. 膝をのばして、足を閉じるように3秒力を入れる
3. 3秒休んで、繰り返す

目安：20回



ここに注意!

- 十分に歩ける人と、よく歩けない人では、歩き方も筋トレの方法も違います。病気やケガを治療中の人、体調に不安がある人は、まず医師や看護師、理学療法士に相談してください。
- 食事のあと、すぐに運動するのは避けましょう。
- 介護者は必ず近くで運動をサポートし、痛みを感じるという訴えがあったらすぐ運動を中止して、医師に相談します。
- 支えが必要な人が行う場合は、机に手や指をつくなど転倒しないように十分注意してもらってください。

<参考> 田中尚喜：図解 百歳まで歩く．幻冬舎，2017.
田中尚喜：百歳まで歩く 正しく歩けば寿命は延びる 5版．幻冬舎，2017.

D care Report 介護の日Webセミナーを開催しました。

一つの場所に会してのセミナーの開催は難しくなった2020年の11月、毎年開催してきた介護の日DケアセミナーをWebセミナーという形で11月11日に開催しました。Web開催とすることで全国から多くの皆様にご参加いただくことができ、セミナーの新たな開催手法を作ることができたと実感しました。

今回のテーマは「新型コロナの状況下での排泄時の感染予防」。昭和大学江東豊洲病院認定看護管理者、感染管理認定看護師の波木井恵子さんにご登壇いただきました。

Webセミナーならではの機能を使い、アンケートや質問受付なども行いました。今後、会場でのセミナー開催ができるようになった際にも、Web配信などの活用についても一つの選択肢として持っておくことができたと思います。

セミナーの内容については報告書としてまとめておりますので、ご覧になりたい際は弊社担当までお問い合わせください。

Care View ケアビュー

介護ロボットの導入や活用の仕方が分からない介護現場と、ニーズに合った機器を開発したい企業をつなぎ、介護ロボット活用の加速化を目指す

厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」

介護ロボット導入のための相談窓口を利用しよう!

介護人材が不足するなか、高齢者の自立支援の促進や質の高い介護を実現するために、介護ロボットやICTなどのテクノロジーの活用が期待されています。
厚生労働省は令和2年度より「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」を開始し、全国各地域に介護ロボットに関する相談窓口を設置しています。

●介護ロボットの相談窓口とは?

介護現場からの「介護ロボットを導入したいが、どれを選べばいいか分からない」「導入の手順が分からない」といった声に対応するため、相談窓口では各地域において介護現場から介護ロボットに関する相談を一元的に受け付け、導入の手助けをします。全国に11カ所設置され担当地域を分担して対応しており、WEB相談も可能です。

●実際にどんな相談ができるの?

相談窓口には実際にどのような相談が寄せられているのでしょうか。東京・神奈川・千葉・山梨を担当する相談窓口である社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンターの粂田哲人さん(地域リハビリテーション部 研究開発課 主任)と、松葉貴司さん(介護ロボット相談窓口)にお聞きしました。

—実際にはどんな相談が来ていますか

今はまだ「介護ロボットって何?」という段階なので「どんなものがあるか教えて欲しい」といった相談が多いです。

—具体的にはどのような手順で支援を進めるのですか

ウェブサイトに掲載されている最寄りの相談窓口まで電話やメールをいただければ、内容に応じてサポートします。「介護ロボットを導入したいが、どうしたらよいか分からない」という場合は、まず今その施設でどんなことが課題になっているのか、業務環境を見直すところからお手伝いをします。導入のためのチームの組み方や補助金などの相談にも乗ります。

—人気の機器はありますか

センサーと通信機能を備えた見守り機器や、移乗を支援するパワーアシスト系機器に興味があるという声が多いですね。

—介護ロボット導入に際しては、どんなことが重要ですか

その施設が目指している介護の方向性があると思うので、それに対しての課題分析ができているかどうかが大きなポイントだと思います。課題が明確になれば、必要な機器もおのずと見えてきます。漠然とした状態であっても、ご相談いただければ一緒に考えていきます。

—相談窓口に行けば介護ロボットを体験できるのですね

相談窓口が遠い場合でも、近くに体験展示施設があれば、そちらを紹介することもできます。新しい技術の機器は、いくら言葉で説明されてもイメージしにくいものなので、実際に触って、使ってみることが重要です。コロナ感染対策もしっかり行っていますので、ぜひ相談窓口に連絡のうえ、体験展示施設でいろいろな最新機器に触れてください。

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業 相談窓口の介護現場への支援内容

各種相談への対応
- 介護ロボットの導入方法、活用方法に関する相談の受け付け
- 介護ロボットを活用した介護現場の業務改善方法、導入事例の紹介
- 製品情報
- 補助金や基金の紹介

介護ロボットの体験展示
介護ロボットに触れ、体験できる展示場を用意

介護ロボットの試用貸出
介護現場から試用貸出依頼の受け付け(無料)
→試用貸出企業への取り次ぎ

研修会の開催
地域における介護ロボット活用事例や介護現場での生産性向上方法の紹介

「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」ウェブサイト
https://www.kaigo-pf.com/
以下のリストも掲載しています
・介護機器導入のための助成制度 ・体験展示されている機器 ・試用貸し出しできる機器
横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口 https://www.yrc-pf.com/

こんにちは

今回の“こんにちは”では、
福島県郡山市の特別養護人ホーム「うねめの里」「うねめの里はるひめ」さん、
宮城県仙台市の「みちのく社会福祉協同組合」および
組合加盟施設である青森県むつ市の特別養護老人ホーム「みちのく荘」さんに、
それぞれオンラインで取材をいたしました。

みちのく社会福祉協同組合

特別養護老人ホームみちのく荘

青森県むつ市に1975年に開設された特別養護老人ホーム「みちのく荘」さん。その中山理事長が中心となり2019年2月に東北地方の5法人で立ち上げたのが「みちのく社会福祉協同組合」さんです(現在は6法人が加盟)。今回の取材ではオンライン取材の強みを生かして、仙台市の「みちのく社会福祉協同組合」から中山理事長、青森から「みちのく荘」の今課長に取材対応いただきました。

人材不足対策としての組合設立

介護人材の不足についてはどこでも聞かれる話題です。その手立てとして外国人介護人材受入れ事業を行う組織として「みちのく社会福祉協同組合」は設立されました。その発起人が今回お話をうかがった中山理事長です。「外国人人材確保のための受け入れ団体として組合を設立しましたが、スケールメリットを活かした共同購入による経費削減、さらには複数の法人が一緒になって新しいケアの取り組みについての共同研究ができないか、というようなことを考えていました。以前からお付き合いのあった5法人から始め、現在は6法人になっています」。人材受け入れ事業については東南アジアを中心に組合が研修・サポートを行い、今年5月にベトナムから第一弾のメンバーが入国予定です。当然ながらコロナ禍の影響は大きく、先が見通せない状況が続く中、それでも粛々と一つずつ進めておられます。共同購入については紙おむつ、リネン、車のリースなど幅広くコスト削減を進めておられます。「加盟法人が集まる理事会が月に1度。各法人がそれぞれに提案を持ち寄ることで、数倍の情報量になり選択肢が格段に広がります」。車については職員の自家用車についてもその枠組みに入れることで福利厚生にもつながっているのだとか。

安眠プロジェクトへの取り組み

共同研究のテーマとして着手したのが「安眠プロジェクト」です。ケアの質と離職防止とを同時にかなえるという意味で夜間の安眠は、どの施設においても現在大きなテーマの一つです。ただ、ケアの内容は施設ごとに違いがあるため組合全体としてではなく、まず「みちのく荘」さんで取り組み、組合にフィードバックする予定でした。しかし他法人の関心も高く、結果的に4法人が取り組むことになりました。見守り機器、自動体位変換マット、高機能な紙おむつを導入することで、安眠していただきながら転倒などのトラブルに対応できる態勢を取り、夜勤帯の職員の負担軽減を実現するというのが狙いです。聞けば中山理事長は元SE。介護の品質管理として、尿量管理システムを自作して皮膚状態や排尿量のデータ、水分のin/outとの相関などを何十年も前から取っていたそうです。現在も新規入居の方についてはデータを必ずとっています。安眠プロジェクトに代表されるように、現場の実情と利用者本人の双方にとって共通するようなテーマを今後も選んで実践をしていきたいとのことでした。

科学的介護への長い取り組みが
ICT機器の進歩を受けて花開いた、
今後どうなっていくか
定期的に進捗を見たいと思わせる取り組みでした。

特別養護人ホーム

うねめの里 うねめの里はるひめ

平成元年の法人設立から30年超。郡山市北西部において軽費老人ホーム、特養の「うねめの里」、地域密着型特養の「うねめの里はるひめ」、デイサービス、特定居宅介護支援事業所と5拠点を構えている郡山福祉会さん。今回の取材では特養の「うねめの里」さんと地域密着型特養の「うねめの里はるひめ」さんより、4名の皆さんにご対応いただきました。

個別ケアの延長線上にあった排せつ支援加算

『「うねめの里」は80床の特養、「はるひめ」が29床とショートステイ10床の地域密着型特養です。多職種連携をどう実現するかを探りながら個別ケアに取り組んできたところに排せつ支援加算が出てきたので「チーム作り」をテーマにチャレンジしました。現在はうねめの里で18名、はるひめで15名の方が加算の対象になっています。今後アウトカム加算が始まりますが、そもそも入居者様のQOL向上を目的としているので、改正の内容によって我々の取り組みにはまらないようであれば、無理に加算を取りにいくことはしないかな、と思います」。取材を受けてくださった両施設のリーダーを束ねる、法人の人財育成研修室介護事業施設サービス部、逵(つち)部長。ひと口に「多職種連携」と言っても当然そう簡単にはいきません。入居者様一人ひとりに対して関わる全ての職種が同じ目的を持つこと、介護スタッフと同じスタートラインに立ってもらおうというスタンスで、排せつ支援加算を取ることを多職種連携を実現させるためのツールとして使ったのだそうです。

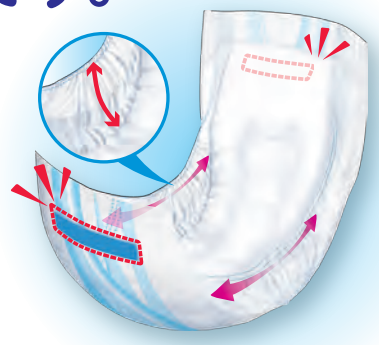
コロナ禍を受けて新たなチャレンジ

新型コロナウィルスの感染が広がってから早一年。その間こちらの両施設ではタブレットを活用したオンライン面会のほか、コロナ前から担当する入居者様の写真をスタッフがご家族専用ページにアップして閲覧できるようにしていたことが、より高く評価をいただくようになったそう。タブレットを各ユニットに1台配置し、担当者が撮影した写真はリーダーがチェックした後に総務課の方でアップするという態勢を取っています。また、YY地域交流活動は、年間400人余りに参加いただくコミュニティーとなっていますが、コロナ禍により集まっての活動が難しくなったのを受け、自宅でできる体操のDVDをスタッフの手で制作。250枚を外出がしづらく運動不足になりがちな地域の方々に配布しました。「職員から出たアイデアで、良いと思ったことはどうすれば実現できるか、みんなで力を合わせて形にしています」(逵部長) こうした取り組みが「誰でも社会参加できるための地域づくり」として評価され、「こおりやまSDGsアワード」「郡山市まちづくりハーモニー賞」を受賞しました。「介護のイメージを変えたい」という逵部長とリーダーの皆さんの取り組みが地域とのつながりを生みながら、ケアの質向上にもつながっているのだということが強く感じられました。

明るく前向きで軽やかな皆さんの
チームワークを目の当たりにして、
チームづくりの重要性について改めて考えました。

2021年3月31発行　発行者/白十字株式会社　〒171-8552 東京都豊島区高田3-23-12

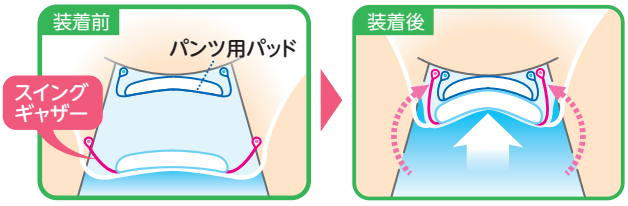
サルバやわ楽パンツ 2回吸収 ＋サルバ紙パンツ用やわ楽パッド ベストな組み合わせです。



気になる モレ・ズレを防止

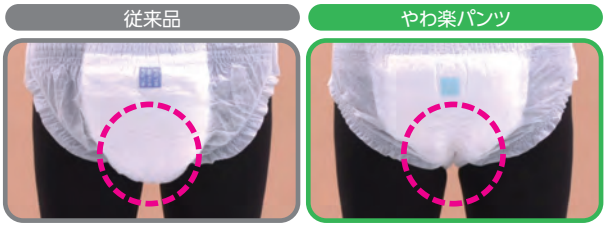
「やわ楽」だけの 紙パンツとパッドの一体感を実現！

①スイングギャザーが パンツ用パッドを包み込んでズレ防止！



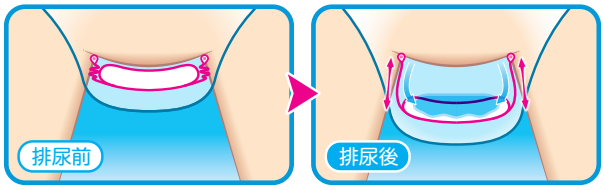
パンツを引き上げるとギャザーがスイングしてパッドを包み込みます。

②フィットアップギャザーが パンツ用パッドを押し上げ密着させてモレ防止！



③ハイフィットギャザーが 排尿後、そけい部とパッドのすき間をなくしてモレ防止！

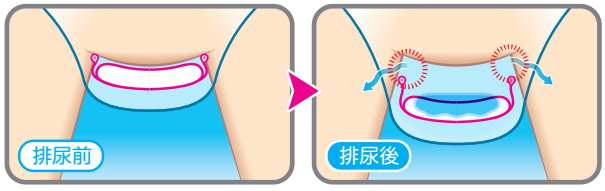
サルバ紙パンツ用やわ楽パッド



股間部にフィットしています

排尿後にパッドごとズレ落ちても ハイフィットギャザーがそけい部とパッドとの 間にすき間をつくらせずモラしません。

従来品



股間部にフィットしています

排尿後はパッドごとズリ落ち すき間からモレやすくなります。

編集部より

2020年春に出された緊急事態宣言から、早いもので一年が経過しました。誰も経験したことのない新しい環境下で、感染リスクの高い高齢者のケアに当たっておられる皆様のご負担の大きさはいかばかりかと、その切実さを感じております。
そんな中で変革に取り組んでおられる現場の事例を紹介することで、皆様のお役に立てればと編集スタッフも知恵を振り絞っております。
なかなか現場への訪問もはばかられる日々が続きますが、折しも介護保険の報酬改定の時期でもあり、皆様にとってお役立ていただけるタイムリーな情報をわかりやすくお伝えしていくよう引き続き努めてまいります。

お問い合わせお便りは
白十字株式会社
「D-wing」 編集部まで
〒171-8552
東京都豊島区高田3-23-12